

未来へ「はみだす」仲間をつなぐ



2015 Autumn Vol.2
Group company newsletter

仲間がいる
未来がある





習志野から綾瀬、そして8月に新たな場所・埼玉県和光市へ移転した通販ソリューションセンター。拡大に伴う移転立ち上げを繰り返しながらも、センター稼働を止めることなくやつてこれたのは、各エリアでのスタッフさんの支えがあつてこそです。

移転は地元で働くスタッフさんにとっては不利なこと。面談を繰り返し、納得いくまで話し合い、不明な点もとことんヒアリングをする…。1人ひとりと向き合うことの大切さを学び、対話を徹底してきました。和光への移転最終日、退職されるスタッフさんに「辞めたいから辞めるわけではない」と言っていただけたことは一生忘れられません。

通販メンバーの社員とスタッフさんの関係は「フラット」。本来

東京北部センター 山田祐司

06

株式会社PAL 東京北部センター
「対話」が育んだ何でも言い合える風土



現場マネジメントといえば上下関係になりそうですが、隔たりのない平等な力関係が、しっかりと意見をぶつけ合い、互いを認めて、助け合う関係になつたのだと思思います。

フラットな関係を保つために大事にしているのは個人面談。直属の上長ではない社員が面談をし、上がつてきた意見は社員同士シェア。結果、ふとした一言から見えたシコリや、社員間での情報統一不足等、普段見逃したり事実が見えたりします。

実は社員にとつても一番の振り返り・反省の場になっています。面談は、「聞く・伝える・知り合う・学ぶ」場であり、結果的に互いの信頼関係を強くする大切な場として今後も続けていきます。

05 株式会社PAL 横浜センター 結束の強さが定着に繋がる!



間もなく8ヶ月となるこの現場。スタート当初は僕1名のみ。まずは自分が現場にべったり入り込んで、作業方法や現場のルールを1から身体で覚えていきました。とにかくすべてがアナログ。また、長年勤務されている方ばかりでしたので、皆さん経験値と感覚値で仕事をしており、もちろんマニュアルはありません。「教えよう」という雰囲気は毛頭なく、職人気質の無口な人達の中に入り込んであります。

で教えを請うのはナカナカ大変でした。自分で覚えたことは少しづつ整理して、スタッフさんは僕と同じ苦労させないようにとマニュアルを組み上げていきました。最初は、新しいスタッフを雇つてもすぐに辞めてしまい、なかなか定着しませんでした。そこで、できるだけスタッフとの接觸時間を持ち、一緒に作業を行い仲間意識を育っていく。

そして、1人、2人…とPAL



綾瀬センター
小倉一哉
KAZUYA OGURA



07

株式会社S-PAL 綾瀬センター

多彩な業務を支えるのはスタッフの頑張り

綾瀬センターとPALグループの他センターとの大きな違いは、DM発送センターであること。約8割がメール便で、個人情報を管理し、DM印刷、封入作業、発送作業、アンケート回収、データ入力などを行っています。DM以外は短期スポットのお仕事が多いので、季節ごとに変わることがあります。

多種多様なお仕事を、理解し、フローを作り、業務にあたっていきます。スタッフさんの理解と対応力がすべてです。

様々なお仕事に臨機応変に対応してくれるスタッフさん達は、一言でいうと「頑張り屋さん」。DMと様々な短期業務があり交じる複合的倉庫で、ほとんどが「手作業」という中、皆さん、黙々と作業を行ってくれます。各作業の勉強会を自主的に開いてく

れたり、突発的なスポットで土日も出でてきてくれたり。何よりも主婦の方々中心のこのセンターで、みんな、ここでのお仕事が終われば、お家でのお仕事が終われば、お家でのお仕事がみっちり待っている。にも関わらず、時間延長や休日出勤などにも、快く対応してくださる。本当に、頭が下がります。

中には、今まで受けた仕事内容や仕事手順を、手帳にすべて書いてくれているスタッフさんもいて、「小倉さん、以前やつたこタックしてもいいんじゃない?」と、逆に営業アラートを出してもらつたことも!

このスタッフさん達に囲まれているからこそ、成り立っているセイタだと心から想い、感謝しています。

長年支えてくれてる
スタッフさん達!



綾瀬センター DATA

住所/東京都足立区綾瀬
取扱商品/DM、中元・歳暮関係、その他
出荷量/DM年間約70万通、中元・歳暮
関係2~3万件
スタッフ数/15名
男女比/3:1



他センターとは異なる
マルチタスクセンター

08

株式会社PAL 相模原センター

扱うものは「荷物」、扱うのは「人」

相模原センター
金 鑫王
XINWANG JIN



スタートして約1年半。女性が約7割、立上げ当初から勤務し続けてくれている方、1年以上勤務いただいている方が約8割と非常に定着率が高い現場です。アルバイトリーダーさん達が、各エリアや業務を責任持って管理監督してくれています。

僕達がもらっているお給料は、お客様のお仕事を行っているからこその中。このお仕事は、正しくキチンと行ってこそ、その価値が生まれます。だからこそ、ミスを無くすのは当たり前です。

効率化を行うのは当たり前。スタッフさんにこのことを少しでも理解してもらうことによって、スタッフさんからも疑問や改善が自然と上がってくる様になります。

扱うものは「荷物」であっても、最終的には「人」。単に仲が良いいという意味ではなく、仕事という面に置いても、「人」同士の暖かさを感じるのが、相模原センターだと思っています。

ひとりで完結する業務がほとんどなく、すべてが一連の流れで成り立っているので、チームワークがモノを言う現場です。だからこそ大切なのは【助け合い】。

そして、大変な時【助け合う】暖かさがこの現場にはあります。お互いが責任を持ち、チームだけでなく、前後のチームのとも思いやつているスタッフの皆がいるからこそ、この現場はうまく動いているんだと痛感します。

扱うものは「荷物」であっても、最終的には「人」。単に仲が良いいという意味ではなく、仕事という面に置いても、「人」同士の暖かさを感じるのが、相模原センターだと思っています。

WELCOME NEWFACE ようこそPALグループへ！

実は私、○△□なんです

News



実は私、歩き回ることが好きなんですが



実は私、せつかちなんです。



①実は○○なんですについての解説。 ②仕事の抱負。



①知らない場所を歩くと新しいお店や道などの発見があって楽しいです。②これからしっかりと事業部を支える存在になりたいです！



実は私、サンタクロースなんですね。



実は私、こう見えても猫好きです。



①可愛いからです。 ②結果を出すのみ！！

実は私、アマチュア無線の免許を持つています。

①スマホ時代の今、あまり役に立ちませんが…、一応、モールス信号も飛ばせます（笑）。②縁の下の力持ちのごとく、表舞台の方を支えれるようになります！

※2015年8月10日までのご入社

編集後記

現場のインタビューをさせていただく度に、現場の皆の結束を感じます。目には見えない信頼関係が成り立っていると言うか…、これぞ「チームワーク」ですね。編集担当として、各現場で感じた空気感を、少しでもお写真で伝えてみたいと思います♪ お写真（撮られること）が得意でない方も多い中、ご協力いただき、本当にありがとうございます！ (いくま)

本誌取材で皆様の現場取材を重ねていく度に、いろいろな侧面を見せていただいています。それは「ど根性」だったり、「たくさんましさ」であったり、時には「織細さ」であったり。それは本当に様々で…、でもその中で共通するものがあります。それは「なんか仲いいですよね」という感想。そこにいつも「なるほどねー」と思う次第です。

(T)

実録!! 林事業部長 謎の途中下車事件！

Topics

2015年6月20日に開催された神奈川エリア親睦会。盛り上がった宴を背に、千葉方向から参加の林事業部長、岡センター長、木寺の3人は、酔ったからだけでギリギリダッシュの荒業を敢行してなんとか終電に乗り込むことに成功！

林：「俺、どこまで電車乗ればいいの？」

木寺「新宿で乗り換えてくださいが、次の瞬間！ 林事業部長が人の波に乗りスープと電車を降りたので

す！ もちろん新宿まではまだまだ。突然の出来事にビックリして、唖然とする岡センター長と木寺。ドアの向こうには一礼する林事業部長…。

翌日。林事業部長のポケットの中から覚えない12,000円のタクシー領収書が出てきたそうです。関係ない電車に乗り継いだら

しく、我に戻った時は、見知らぬ街に独り取り残されていた模様。皆さん、飲み過ぎには注意しましょう♪



小指の曲がり具合から、何かが起こる予感を漂わす林事業部長

物流システム機械はおもしろいっ!!

開発中ナウ！ Topics

「生産性」以外の物流目線

現在、通販センターでは、ケースの高さを自動調整する包装機械「I-Pack®」を導入しています。この機械は、センサーでケースの中に詰められた商品の高さを感じし、商品の高さに合わせてケースの側面を折りたたみ、外ぶたで封函します（写真A）。これにより、物流工程で一番工数のかかる「梱包」業務が効率化され、生産性は約8倍に向上了！ 通販のお客様の「大量に当日出荷したい」というニーズに確実に答えていけるようになりました。

しかし！ 実はこの梱包機を入れたのは、生産性だけの視点ではないんです。

通販を利用した時に、指紋がついていたり、いかにも「誰かの手が触れました！」という感じの梱包やラッピング、商品の畳み方、詰め方…をされていた場合、皆さんも何かその店に不安を感じたり、あまり清潔感を感じられなかったりしますよね。当然、今ひとつ信頼しきれなくて、商品に不満はないけれど、リピートする気にはなれなかったり…。

エンドユーザーの方々が期待していることは明確です。商品がピチッと詰め合わされていて統一感があり、機械的に梱包されていて、いつ頃でも今回同様きっと来てほしいということ。そこに通販ショップへの「清潔感」や「安心感」、「信頼」が、生まれるんです。

物流から得る「安心」や「信頼」

その手法を重視して大成功しているECサイト…、そう、Amazonです！



(写真 A) 商品の高さに合わせて、ダンボールを自動的に折り畳む

物流サービスの「均一性」にこだわろう！



メール便サイズにも対応可能、高さを20mm～130mmまで自在に変えられる自動包装機械！
<http://www.rengeo.co.jp/products/machine/gemini.html>



細かい業務まで、まるで人間と同じように作業が可能なロボット！
<http://www.rethinkrobotics.com/>

皆さんもこんな視点で見た時、おもしろい物流機械やシステムなどがあったら、どんどん教えてください！ いろいろトライ・アンド・エラーして、PALグループの将来に必要な機械を開発ていきましょう!!

Amazonは顧客の「安心感」を物流を通じて勝ち取り、絶大な「信頼」を得て、ファンやリピーターを増やしています。

私達が物流機械の開発や、オートメーション化に力を入れるのには、通販の物流サービスにおいて、この【均一性の重要さ】を感じているからもあるんです。

これからの日本は、女性や高齢者、外国人が活躍する社会になります。その中で、「誰でも均一的な業務ができる環境づくり」のためにオートメーション化は必須ですね。

ちなみに…今、新しい機械では、下記のようなものに注目しています！

PAL グループ 社員紹介 リレー



リレー形式での社員紹介です♪
皆さんもそのうちに誰かに
紹介されちゃうかも!?



アンケートのお願い

誌面のレベルアップのために、
皆さまのお声をぜひ聞かせてください。

※2015年8月10日時点の所属になります